

平成 23 年度 設備投資計画 ～ 鉄道事業を中心に総額 13,265 百万円 ～

< 主な投資項目 >

IC カード「manaca」の相互利用に向けた駅務機器及びシステム等の開発・改修
太田川駅付近の高架化を始めとした駅施設の改良
「新中経ビル(仮称)」の建設
鉄道業務棟の建設

名古屋鉄道では、名鉄グループ中期経営計画(平成 21 年度～23 年度)に基づき、同計画の重点テーマである「交通ネットワークの充実」、「生活サービス・都市開発事業の強化」などの実現に向け、平成 23 年度の設備投資計画をまとめました。

来年度の主な投資として、今年 2 月に導入した IC カード「manaca」と他の IC カード乗車券との相互利用に向けた駅務機器及びシステム等の開発・改修、太田川駅付近の高架化工事(平成 23 年度中の供用開始予定)などを実施します。また、平成 24 年 7 月の供用開始に向け、「新中経ビル(仮称)」の建設を継続するほか、平成 24 年 1 月竣工予定の鉄道業務棟の建設に着手します。

来年度の設備投資額は、今年度まで高水準で続けていた manaca の導入に関する投資やバリアフリー化工事が一段落したことなどにより、大幅な削減があった一方で、例年以上に旅客安全及び運転保安に関わる投資を推進する予定で、全体では今年度比マイナス 10%程度の 13,265 百万円となります。

事業別設備投資計画額の対前年比較は以下のとおりです。

< 事業別設備投資計画額内訳 >		(金額単位 百万円、税抜き、単位未満切捨て)			
事業	平成 23 年度	平成 22 年度	前年との差額	増減率	(参考)平成 21 年度
鉄道事業	8,994	12,931	▲ 3,937	▲ 30.4%	13,825
開発事業	3,935	1,654	2,281	137.9%	3,156
その他	334	58	276	475.9%	488
総額	13,265	14,645	▲ 1,380	▲ 9.4%	17,470

鉄道事業 [8 , 9 9 4 百万円]

鉄道事業では、通勤型車両(計8両)の新造による旧車両の更新など、輸送力の増強に1,092百万円、ICカード「manaca」の相互利用に向けた駅務機器の開発や駅施設の改良など、サービス改善工事に993百万円、鉄道高架化の推進、踏切保安設備や土木・電気設備の改良など旅客安全・運転保安工事に6,909百万円の計8,994百万円を投資します。

1 輸送力の増強(1,092 百万円)

(1) 車両の新造

- 瀬戸線の車両更新を図るため、同線専用の通勤型車両 4000系を8両(4両組成×2編成)新造します。



4000 系

2 サービス改善工事(993 百万円)

(1) ICカード「manaca」の相互利用に向けた駅務機器の開発

- 平成24年春を目途に実施予定の、東海旅客鉄道株式会社(ＪＲ東海)のTOICAとの乗車券の相互利用及び、平成25年春を目途に実施予定の、東日本旅客鉄道株式会社(ＪＲ東日本)のSuicaとの乗車券の相互利用等に対応するため、関連する機器やシステムの開発及び改修を実施します。

3 旅客安全・運転保安工事(6,909 百万円)

(1) 安全・保安対策

- 転てつ器用の速度超過防止用ATSを金山、前後、新清洲など37駅に設置するほか、踏切対策用のATSを名古屋本線・犬山線・常滑線の56駅に設置します。また、ホーム転落対策として、列車の乗務員に異常を知らせる列車非常通報装置を本宿、東枇杷島、東大手など6駅に設置します。

(2) 踏切道保安設備の新設・改良

- 踏切道の保安対策として、踏切障害物検知装置(3カ所)及び踏切遮断機(22台)の更新並びに踏切道の非常ボタン(19カ所)の設置などを行います。

(3) 車両の改良

- 100 系 1 編成の制御装置を VVVF 化し回生ブレーキを導入することで消費電力を削減するほか、ATC (自動列車制御装置) を更新して保安度の向上を図ります。
- 運転士が運転操作不能になった場合に列車を自動的に停止させる運転士異常時列車停止装置を 30 両に設置します。
- 運転状況を記録する運転状況記録装置を 30 両に設置します。
- ホームから車両連結部への転落防止を図るため、固定連結部の車体側面に連結面転落防止幌を 30 連結面に設置します。

(4) 土木施設の改良

- 列車の乗り心地を向上するため、まくらぎの PC 化 (犬山線・瀬戸線・西尾線など延べ約 2.3km) 及び分岐器の弾性化 (5 ヶ所) を実施します。

(5) 電気施設の改良

- 安定した電力供給を図るため、枇杷島変電所の改良工事をはじめ、沿線各所で変成機器や高圧遮断器など電力設備の更新、き電線の増強・改良などを実施します。
- 保安度の向上を図るため、列車の在線を検知する軌道回路や列車無線基地局などの改良・更新を実施します。

(6) 高架化

- 安全対策の推進と都市計画事業の一環として、5 カ所で高架化工事を実施します。

	路線名	区間	距離
太田川駅付近 高架化工事	常滑線	新日鉄前～尾張横須賀間	2.0km
	河和線	太田川～高横須賀間	0.7km
知立駅付近 高架化工事	名古屋本線	一ツ木～牛田間	1.6km
	三河線	重原～三河八橋間	2.7km
喜多山駅付近 高架化工事	瀬戸線	小幡～大森・金城学院前間	1.9km
青山駅付近 高架化工事	河和線	成岩～上ゲ間	1.6km
布袋駅付近 高架化工事	犬山線	石仏～江南間	1.8km

開発事業 [3 , 9 3 5 百万円]

- 名古屋駅前において、中部経済新聞社などとの共同事業である「新中経ビル（仮称）」の建設工事を進めます。同ビルは、鉄骨及び鉄筋コンクリート、鉄骨鉄筋コンクリート造地下 2 階地上 17 階建て、延床面積約 30,100 m²のオフィスビルで、平成 24 年 7 月の供用開始予定です。



新中経ビル(仮称)

- 神宮前駅東口において、安定的な列車運行と事故・災害時対応力の更なる向上のため、鉄道業務棟の建設に着手しました。同棟は、事務棟と合宿棟の 2 棟からなり、事務棟は、鉄骨造地上 7 階建て、延床面積約 7,300 m²、合宿棟は、鉄筋コンクリート造地上 6 階建て、延床面積約 2,100 m²となります。平成 24 年 1 月末の供用開始を予定しています。



鉄道業務棟

その他 [3 3 4 百万円]

- 業務システムの構築や、職場内のコンピュータ機器類の更新を進めるなど、IT 環境の改善を図ります。

名古屋鉄道を含む平成 23 年度の名鉄グループ設備投資額は、27,452 百万円。

以 上